



## Q 最新の世界経済の見通しは？

**A** IMFは、2017年、18年、19年の世界経済見通しを上方修正しました。特に18年以降は米国の法人税減税等が大きく寄与すると考えられます。日本、新興アジア、新興欧州、ラテンアメリカも上方修正されました。

- 国際通貨基金（IMF）は、世界経済の実質GDP成長率見通しを18、19年ともに+3.9%と昨年10月時点から上方修正しました。上方修正幅の半分は米国の法人税減税や世界貿易の拡大が寄与する見通しで、先進国の上方修正が主因です。特に18年の日本は外需の拡大が期待されており、先進国ではドイツと並んで最も高い上方修正となりました。
- 新興国・地域は、18年、19年も引き続きアジア新興国（中国、ASEAN5、インド）の高い成長が

予想されます。一方、新興欧州は世界経済へのインパクトは小さいものの、大きく上方修正されました。ユーロ圏向けの輸出需要の高まりなどが背景です。また、ラテンアメリカでも回復ペースが早まると予想されました。ブラジルは引き続き回復基調にあること、メキシコがアメリカの需要増を反映して輸出の増加が期待できることなどが背景です。

- 物価上昇率は低位で推移するとの見通しを維持しました。ただ、緩やかに上昇する見通しに上方修正されました。

### 【IMFの世界経済見通し（2018年1月）】

(単位：%)

	2017年（推計）		2018年（予想）		2019年（予想）	
	成長率	修正幅	成長率	修正幅	成長率	修正幅
<b>世界全体</b>	3.7	0.1	3.9	0.2	3.9	0.2
<b>先進国・地域</b>	2.3	0.1	2.3	0.3	2.2	0.4
日本	1.8	0.3	1.2	0.5	0.9	0.1
米国	2.3	0.1	2.7	0.4	2.5	0.6
ユーロ圏	2.4	0.3	2.2	0.3	2.0	0.3
英国	1.7	0.0	1.5	0.0	1.5	▲0.1
(参考) 豪州	2.2	-	2.9	-	3.0	-
<b>新興国・地域</b>	4.7	0.1	4.9	0.0	5.0	0.0
中国	6.8	0.0	6.6	0.1	6.4	0.1
ASEAN5	5.3	0.1	5.3	0.1	5.3	0.0
インド	6.7	0.0	7.4	0.0	7.8	0.0
ブラジル	1.1	0.4	1.9	0.4	2.1	0.1
メキシコ	2.0	▲0.1	2.3	0.4	3.0	0.7
新興欧州	5.2	0.7	4.0	0.5	3.8	0.5
ロシア	1.8	0.0	1.7	0.1	1.5	0.0
南アフリカ	0.9	0.2	0.9	▲0.2	0.9	▲0.7
<b>世界貿易数量</b>	4.7	0.5	4.6	0.6	4.4	0.5
先進国	4.1	0.1	4.3	0.6	4.2	0.7
新興国	5.9	1.5	5.1	0.4	4.8	0.2
<b>消費者物価</b>						
先進国	1.7	0.0	1.9	0.2	2.1	0.1
新興国	4.1	▲0.1	4.5	0.1	4.3	0.2

(注1) ASEAN5はタイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、ベトナムの5カ国。インドは年度。

(注2) 各年の修正幅は2017年10月時点の見通しとの比較。豪州は2017年10月の見通し。

(出所) IMFのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。